

淀川水系流域委員会  
琵琶湖部会部会長殿

橋本 崇弘

2月19日の第10回部会を傍聴させて頂き、誠に有難うご在居ました。  
部会当日の資料3-2の討議の事と、資料3-2の全体内容について一つの提案をさせていただきます。私が資料判読不足であればご容赦下さい。

1) 資料3-2の3-1の検討中

江頭委員より、歴史的な考えを反映する事が必要ではとの指摘がありました。この件に関しては、前回の時にも指摘提案があり、結果、資料中1-1にて明文化されていると考えますが如何でしょうか。

2) 資料3-2の全体文面を判読するに当り、今までの会議の中でも河川とは、を検討する時には、その上流より、その流域をも含むものと、判断されておられたが、それを取りあげている箇所は、資料中2-5の と2-6の の2ヶ所しかないように思えるのでありますが、湖、川を論ずるにあつて、特に今後の河川整備計画の基本を論ずるにあつては、下記に示す事柄を念頭に意識され、整備計画の視点の中に、陸域及び湖中に於ける流下水の滞水時間の確保を明文化されるべきではと考えますが。

・降雨水、融雪水等による湖、川の水位の急激な上昇及び減少を抑制し、出来る限りゆっくりと上昇させかつ、ゆっくりと流下させる事が被害の拡大増大(加)を防ぎ、かつ、その事が水の自然浄化につながり、そして、より多くの動植物の繁殖、繁栄につながるものとする時、森林特に落葉樹林の増殖育成は、言うまでもなく、陸域及び湖中に於ける滞水池(地)を増加させる事が必要、即ち、遊水池、棚田的用地、溜池、貯水池等の確保、拡大が急務であり、かつ、琵琶湖そのものにあつては、内湖の復元こそより大切にして急務ではと考えますが。

・琵琶湖の湖畔の砂浜の減少は、河川よりの砂の流入がない限り、防ぐ事は無理でしょう。以前に有していた、その川の本来の流下水量を確保しなければいつか、砂浜は減少すると考えます。流量、流導の確保の方策をも論ずるべきでは。

(以上)